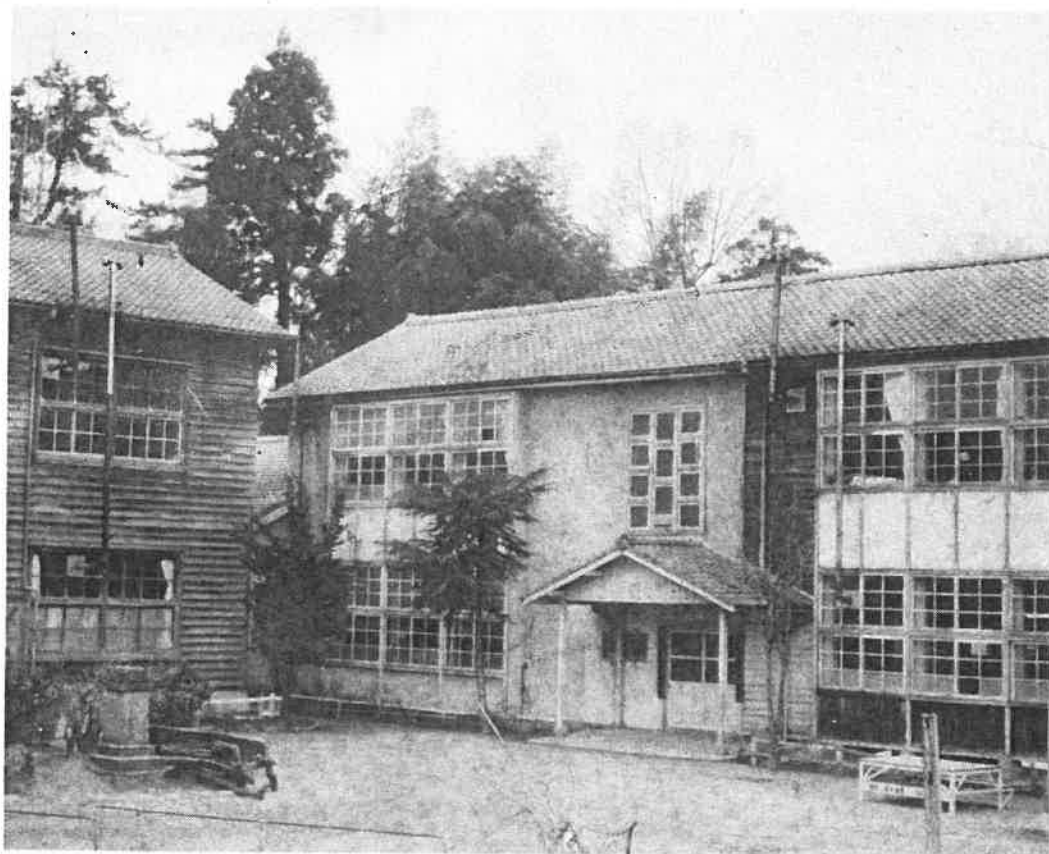
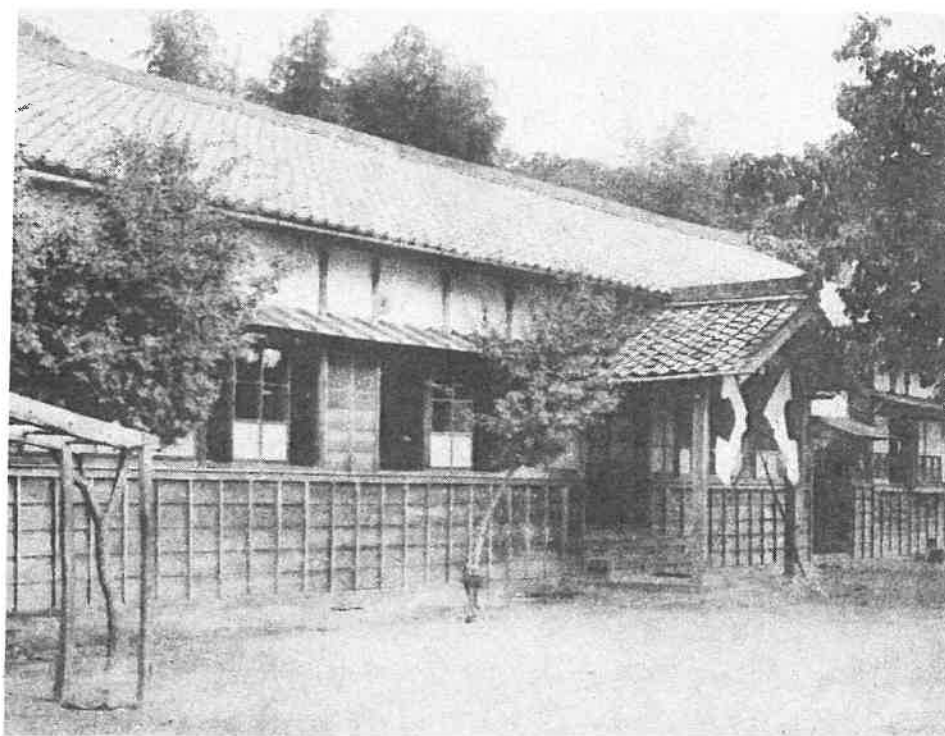


法吉 校誌抄

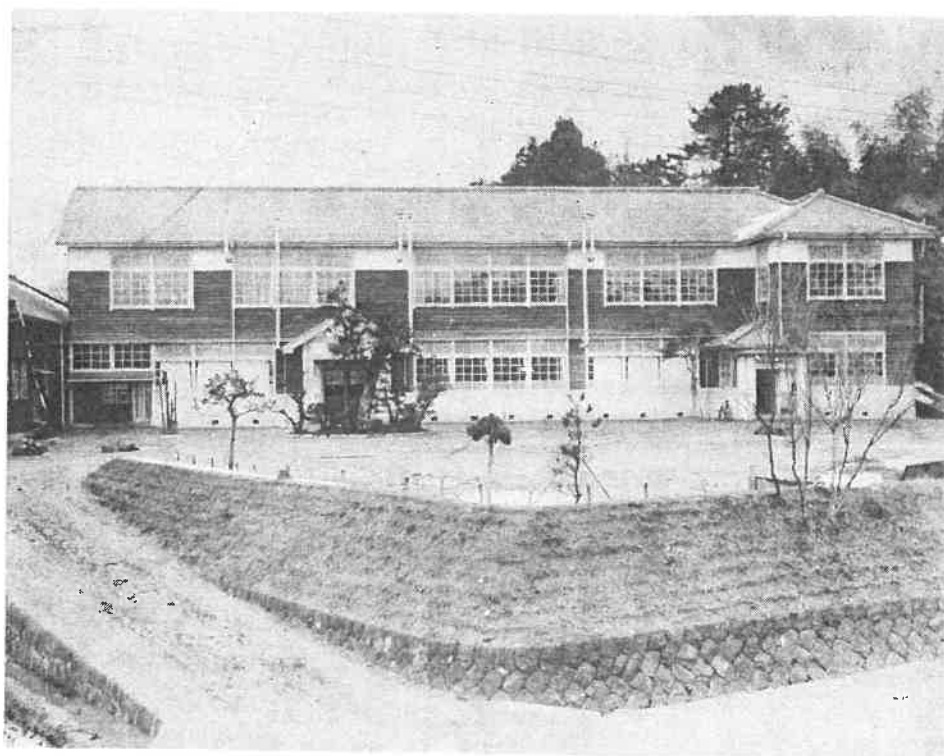
昭和46年3月



法吉教育会



明治 26 年 ~ 昭和 3 年



昭和 4 年 ~ 昭和 21 年

発 刊 の こ と ば

法吉教育会長 多 久 和 繁 男

明治6年黒田町龍雲寺を校舎として開校され、以来90余年、その間幾多の人材を送り出した法吉校舎も、昭和44年、時代の進運と共に北堀小学校と統合され、名称も城北小学校と称することになった。そしていよいよこの4月からは新装なった東奥谷町の新校舎において授業が行なわれることになった。

我々本校にゆかりのある者にとってはまことに感無量のものがある。しかしながら高度経済成長をとげた現代日本の教育の場として、それにふさわしい近代設備の整備された良好な環境の下で教育を受けることこそもっとも大切な事と考えられ、現代の子どもはしあわせであると思つづく思ふ次第である。

本校は不幸にして昭和21年8月火災にかかり、その校舎の殆んどを焼失した。火災が夜であったことと発見がおくれたため、書類などの搬出が全然できず貴重な資料のすべてが烏有に帰したのはかえすがえすも残念な次第である。

法吉教育会としては統合の話が具体化した昭和43年より散逸した資料を収集し、校誌を編纂して後世の参考に資したいと比津町在住の石橋恭氏に委嘱した。石橋氏は旧持田村出身で、中年になってから本地区へ移住された人であるにもかかわらず、家業の手をさいてもっぱらこれに専念され、地区内の古老、旧家をたづねて資料を求め、あるいは又遠く旧教師を訪れて当時の話を聞くなど、あらゆる手段をつくしてまとめ終えたのは昨年(昭和45)の12月であった。

以上のような経過で収集された資料に基いて一応校誌として編纂したのであるが、不備の点が多々あり「校誌」と言うにはあまりにもおこがましい気持ちであるけれども、統合の時期も切迫したのでとりあえず「法吉校誌抄」として印刷製本に附した次第である。

前にも述べたとおりまだ不備な点、間違った事項もあると思うので各位のご叱正を頂き、あるいは又新しい資料のご提供を頂くならば補完してゆきたいと考えるので、ご協力下さるよう切にお願いする次第である。

昭和46年3月3日

発 刊 に 寄 せ て

城北小学校長 岩 田 剛

城下町松江を北にはずれると、そこには広々とした黒田、法吉、春日、比津の連台が一望にひろがっていた。春の早苗とり、初夏の田植え時期に作業に精出す人々の姿は平和な法吉村の象徴であった。また、炎暑の候には広大な連台はさながら紺碧の大海原のごとく、秋は黄金の穂波がそよぎ、この地の豊かさを目の当りに見せてくれた。この連台の中を一筋、松江の外港江角、古浦に伸びる街道があり、その道をはさんで摩利支神社の森と、法吉小学校の高台が相對してあった。村民の心のよりどころの神社と小学校は、村のちょうど中心の地点に定められてあった。明治初年、永い武家政治の圧政から解放された庶民が、新しい社会づくりの中心とした小学校の所在地が、村の中心にあるということは、当時の人々が、いかに義務教育に力を入れていたか、その深い思慮の程がうかがわれる。

それからほぼ一世紀を経た現在、社会情勢は大きく変貌した。豊かな農耕地帯は市街地化し、いたちが走っていた街道は、車がひっきりなしに走っている。昔日の面影は失われつつある。偶々、学校統合によって、法吉小学校が城北小学校と校名変更され、校舎も新築移転されることになった。法吉教育会はその最後の事業として法吉小学校誌を編纂し、法吉小学校の歴史を永く留めることを企画され、資料収集を石橋恭氏に依頼された。石橋氏は文字通り精力的に資料の蒐集を始められた。その間、卒業生各位や、旧職員各位の好意による資料提供、助言を得られ、2か年余りの短時間の間に本誌をまとめられたのである。然も、多忙な家業に従事しながら、全くの報酬もなくこの仕事を遂行いたされた氏の崇高な愛校精神と奉仕精神に深い敬意を表する次第である。

黒田龍雲寺の一室を借りて開校された法吉小学校は100年の間に3,000人に近い卒業生を世に送り出している。卒業生諸氏は各々家業の興隆につくされ、豊かな村づくり、町づくりに精魂を傾けられた。

教育は人づくりである。そのことは教育を受けた人々が形成する社会づくりにも連らなっている。学校の歴史は、学校が存在する地域社会の歴史でもある。この法吉小学校誌が、手にされる人々の心に先人の努力を伝え、将来の発展に資する何物かが続み取られることを念じ、発刊を祝すことばとする。

昭和46年3月

目 次

発刊のことば	3
発刊に寄せて	4
I 沿革	6
1. 沿革概要	6
2. 解説	8
II 歴代の学校長	18
III 在籍児童数の推移	18
IV 卒業生数の推移	19
V 法吉教育会・法吉小学校体育振興会	21
(1) 変遷	21
(2) 歴代の学校長	22
(3) 会則	23
VI 旧職員	30
VII 卒業生名簿	31
1. 島根県島根郡法吉村尋常小学校（島根県八束郡法吉村尋常小学校）	31
2. 島根県八束郡法吉村国民学校（初等科）	45
3. 島根県八束郡法吉村立法吉小学校（松江市立法吉小学校）	48
4. 島根県松江市立城北小学校（法吉校舎）	60
5. 島根県八束郡法吉村尋常高等小学校（高等科）	61
6. 島根県八束郡法吉村国民学校（高等科）	67
VIII 在校生名簿	69

I 沿革

1. 沿革概要

明治	6・12・15	第4大学区第18中学区第26番黒田小学校創設
	24・1・15	教育勅語謄本下賜。
	25・9・18	島根県島根郡法吉村尋常小学校と改称。
	25・	校舎新築落成移転。
	25・11・2	御真影拝戴。(明治天皇)
	29・4・1	島根県八束郡法吉村尋常小学校と改称。
	37・4・15	高等科を併設し、島根県八束郡法吉村尋常高等小学校と改称。
	40・	第1期校舎増築。
	43・	第2期校舎増築。
大正	2・4・11	島根師範学校代用附属校となる。
	5・10・23	御真影拝戴。(大正天皇)
	6・3・31	代用附属を解く。
	6・6・7	法吉村実業補修学校を附設。
	15・7・1	法吉村青年訓練所を併置。
昭和	3・10・11	御真影拝戴。(今上天皇)
	4・1・20	校舎新築落成。
	12・6・	法吉村尋常高等小学校々歌制定。
	16・4・1	島根県八束郡法吉村国民学校と改称。
	16・4・1	法吉村教育振興会結成。
	16・	法吉村国民学校々歌制定。
	17・	校庭(運動場)造成。校内放送施設整う。
	21・8・18	出火のため校舎全焼。
	22・4・1	島根県八束郡法吉村立法吉小学校と改称。
	22・11・22	法吉村立法吉小学校PTA結成。
	23・3・29	校舎落成。
	23・10・10	松江市に合併、松江市立法吉小学校となる。
	24・1・25	子ども銀行開店。
	24・8・27	給食室増築。
	24・12・19	ピアノ購入。
	26・4・2	講堂兼屋体竣工。(現幼稚園舎)
	26・4・16	完全給食開始。
	28・8・28	校舎第1次増築。(新校舎2階建4教室)
	29・1・23	開校80周年記念式典。

- 松江市立法吉小学校々歌・校章制定。
- 30・1・1 松江市立法吉小学校体育後援会結成。
- 30・9・16 校舎第2次増築。(上下2教室・宿直室・給食室)
- 31・7・12 法吉教育会結成。(教育振興会・PTA・体育後援会を統合)
- 31・9・13 「茶の木を育てる会」結成。
- 33・ 校地拡張・校庭拡張。
- 33・7・3 屋内体育館(講堂)竣工。
- 33・8・ 水道工事完了。(9月より使用)
- 34・1・30 グランドピアノ購入。
- 35・2・17 湯わかし場改装。
- 37・5・9 法吉小学校子ども会、県教育委員会、毎日新聞社より表彰を受く。
- 38・3・25 物置小屋竣工。 38 3 卒業
- 38・4・1 松江市立法吉幼稚園併置。
- 38・10・24 法吉教育会、文部大臣表彰を受く。
- 38・11・27 開校90周年記念式典。
- 42・2・23 放送施設完工。
- 43・2・5 鼓笛隊結成。
- 44・4・1 法吉小学校と北堀小学校の名目統合により、松江市立城北小学校となる。

2. 解 説

(1) 校名および制度

○第4大学区第18中学区第26番黒田小学校

明治5年8月3日学制が公布された。学制は全国を8大学区に分け、1大学区に32中学区を、1中学区に210小学区を設けた。

島根県は第4大学区に属し、第18番中学区から第20番中学区に至る3中学区を定めたが、のちしばしば改訂された。明治7年4月に改定した学区は、第18番中学区を179小学区、第19番中学区を190小学区、第20番中学区を174小学区とし、1小学区の人口は600人の割合とした。

明治6年12月15日、第4大学区第18中学区第26番黒田小学校として黒田村（現黒田町）の「龍雲寺」に開設された。

当時の黒田小学校は、中村準一郎の経営する塾を龍雲寺に移したといった程度のものであった。

開設当時は学制の年限や教材はまちまちであったが、明治7年、上等、下等に区分し、下等8級4か年（毎級6か月）と、上等8級4か年（毎級6か月）に改め、僻地には3か年の簡易料を置くことを認めた。

明治19年4月小学校令が公布され、尋常と高等に区分し、それぞれ4か年とし、尋常小学4か年を義務教育とした。これが義務教育のはじまりである。

○島根県島根郡法吉村尋常小学校（島根県八束郡法吉村尋常小学校）

明治25年改正小学校令の公布により、島根県島根郡法吉村尋常小学校と改称された。なおこの年、校舎の新築移転が行われ、春日村172番地（現法吉校舎の建在地）に移転した。

明治29年3月、島根郡は、秋鹿郡、意宇郡と共に合併して八束郡となり、それにともない島根県八束郡法吉村尋常小学校となった。

○島根県八束郡法吉村尋常高等小学校

明治37年4月15日高等科が併設され、それにともない島根県八束郡法吉村尋常高等小学校となった。

明治40年3月の小学校令の改正により、尋常科を6年、高等科を2年～3年（本校は2年）とし、義務教育の年限が6か年となり、翌年（明治41年）4月から実施された。

○島根県八束郡法吉村国民学校

昭和16年4月1日、国民学校令により島根県八束郡法吉村国民学校と改称された。この国民学校令では、義務教育は8か年（初等科6か年、高等科2か年）に延長されたが、戦時非常措置によりその実施は延期のまま終戦となった。

○島根県八束郡法吉村立法吉小学校（島根県松江市立法吉小学校）

昭和22年3月31日、教育基本法、学校教育法が公布されて新学制が法律で決定された。これにより小学校6年、中学校3年のいわゆる六・三制が実施となり、小中学校9か年を義務教育とする新学制が4月1日より発足した。この新学制施行にともない、島根県八束郡法吉村

立法吉小学校と改称された。

昭和23年10月10日、法吉村が松江市に合併され、それにともない松江市立法吉小学校となった。

○島根県松江市立城北小学校

昭和44年4月1日、法吉小学校と北堀小学校の統合により、島根県松江市立城北小学校となった。なお、実質統合までの間（昭和46年3月31日まで）は便宜上、城北小学校法吉校舎とよんだ。

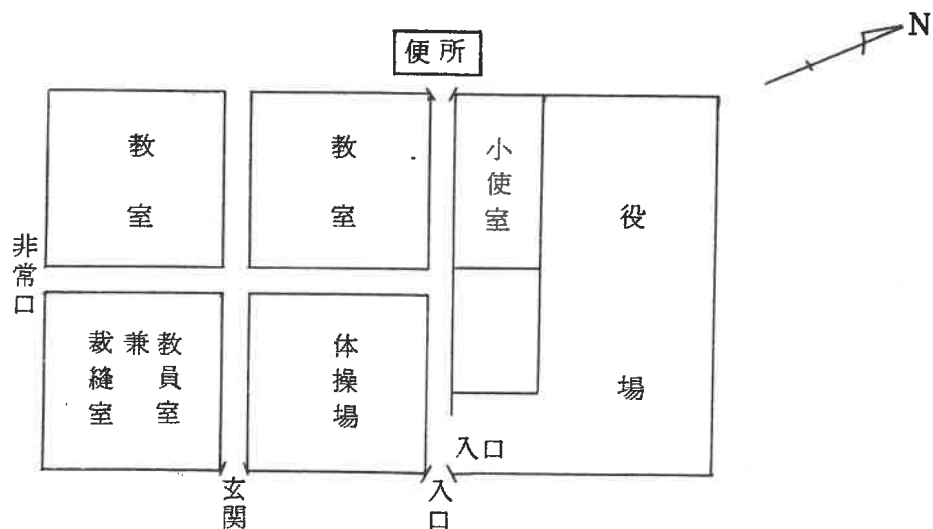
(2) 校舎および校地

- 明治25年校舎の新築移転が実現した。それまでは黒田村「龍雲寺」におかれていたが、春日村172番地（現法吉校舎の地）に新校舎が建設され、校地校舎の移転が行なわれた。当時の記録は火災焼失のため資料がなく不詳であるが、別図(1)のようなものであったと考えられる。また、校地についても、面積、区画等不詳である。

新築の校舎は平屋建て瓦葺きで障子張りの教室であった。北側の役場に隣接して一棟の建物で、教室2、体操場、教員室（一部を裁縫室に使用）の4室に区切られていた。

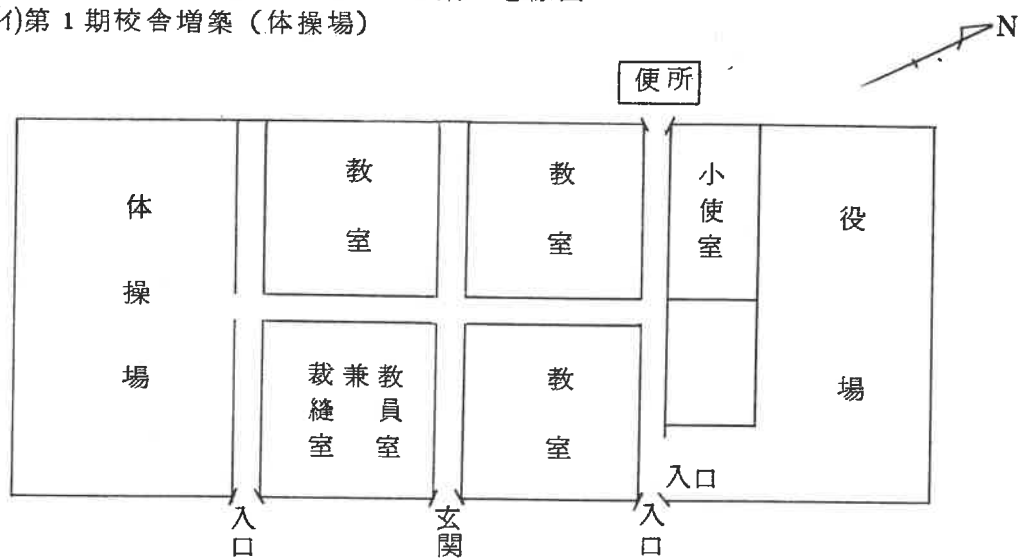
- 明治40年に第1期校舎増築が行なわれ、続いて明治43年に第2期校舎増築が行なわれた。これも記録がないので不詳であるが、だいたい別図(2)のようなものであったと考えられる。
- 昭和4年1月20日、校舎の新築落成をみた。校舎の構造は二階建てで、二階の床と一階の天井との間に土を入れ、当時の技術としての防音、防火に意が払われていた。当時の県下の学校としては最も優秀なものであり、その管理も行き届いており、清潔な美しい学校として有名であった。別図(3)を参照。
- 昭和17年、校庭（運動場）の造成が行なわれ、道路をはさんで東側に新しく約3,643㎡の校庭ができた。それまでは、校舎の建っている前庭のみが校庭であり、運動会等もこのせまい前庭の校庭で行なわれていた。
- 昭和21年8月18日、出火のため校舎が全焼した。この時、隣接の役場も全焼し、重要書類（資料）を焼失してしまった。
- 昭和23年3月29日校舎の落成をみた。続いて昭和24年8月27日給食室の増築が完工し、昭和26年4月2日には講堂兼体操場の竣工をみた。これは現在幼稚園舎となっている。
- 昭和28年8月28日、第1次校舎増築が完工した。現在新校舎と呼んでいる北側の校舎で、玄関から東側の二階建て4教室である。続いて昭和30年9月16日、第2次校舎増築が完工した。これは玄関から西側の二階建て2教室と宿直室、給食室である。
- 昭和33年に至り、新しい講堂（屋内体育館）の建築に当り校地の拡張が行なわれ、校庭（運動場）もこの時、約992㎡拡張され、4,635㎡の広い校庭となった。そして、昭和33年7月3日、新しい講堂（屋内体育館）の竣工をみた。これが現在の校舎である。別図(4)参照。
- 昭和44年4月1日、法吉小学校と北堀小学校の統合により城北小学校となり、松江市東奥谷町に新校舎の建築が行なわれ、昭和46年3月31日をもって、法吉校舎を閉校することになった。

図(1)明治25年新築された校舎の想像図

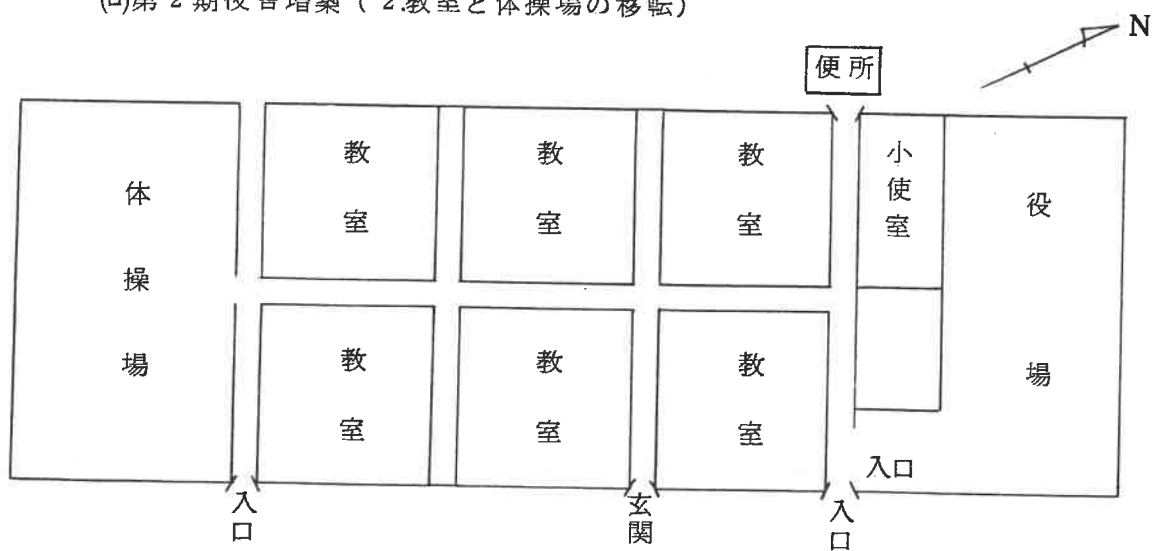


図(2)明治40年、明治43年校舎増築の想像図

(イ)第1期校舎増築(体操場)



(ロ)第2期校舎増築(2.教室と体操場の移転)

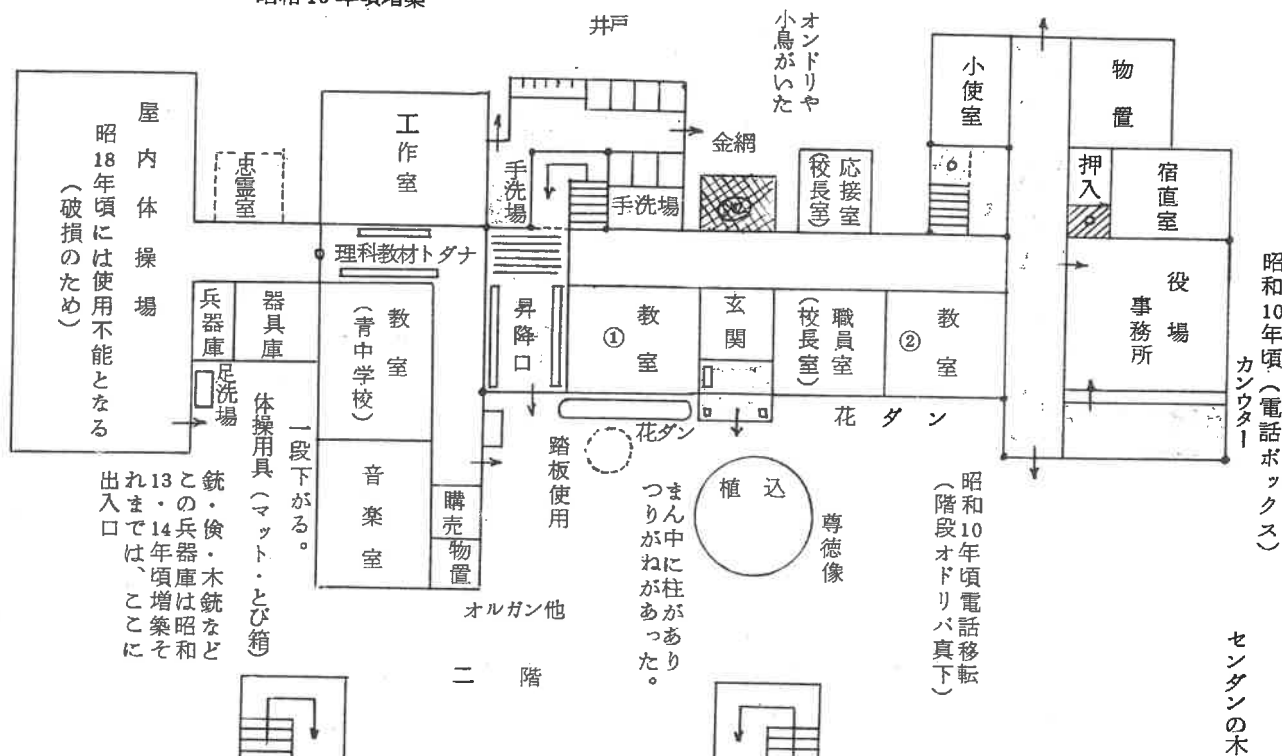


図(3) 昭和21年8月火災焼失前の校舎平面図

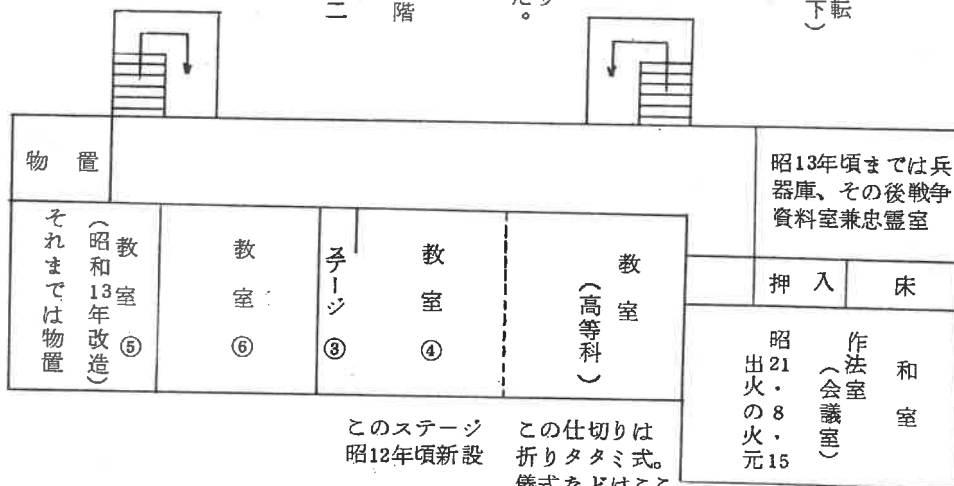
一 階

奉安室を兼ねる。校換などもあった。
須寿校長は校長室として使う。

昭和16年頃増築



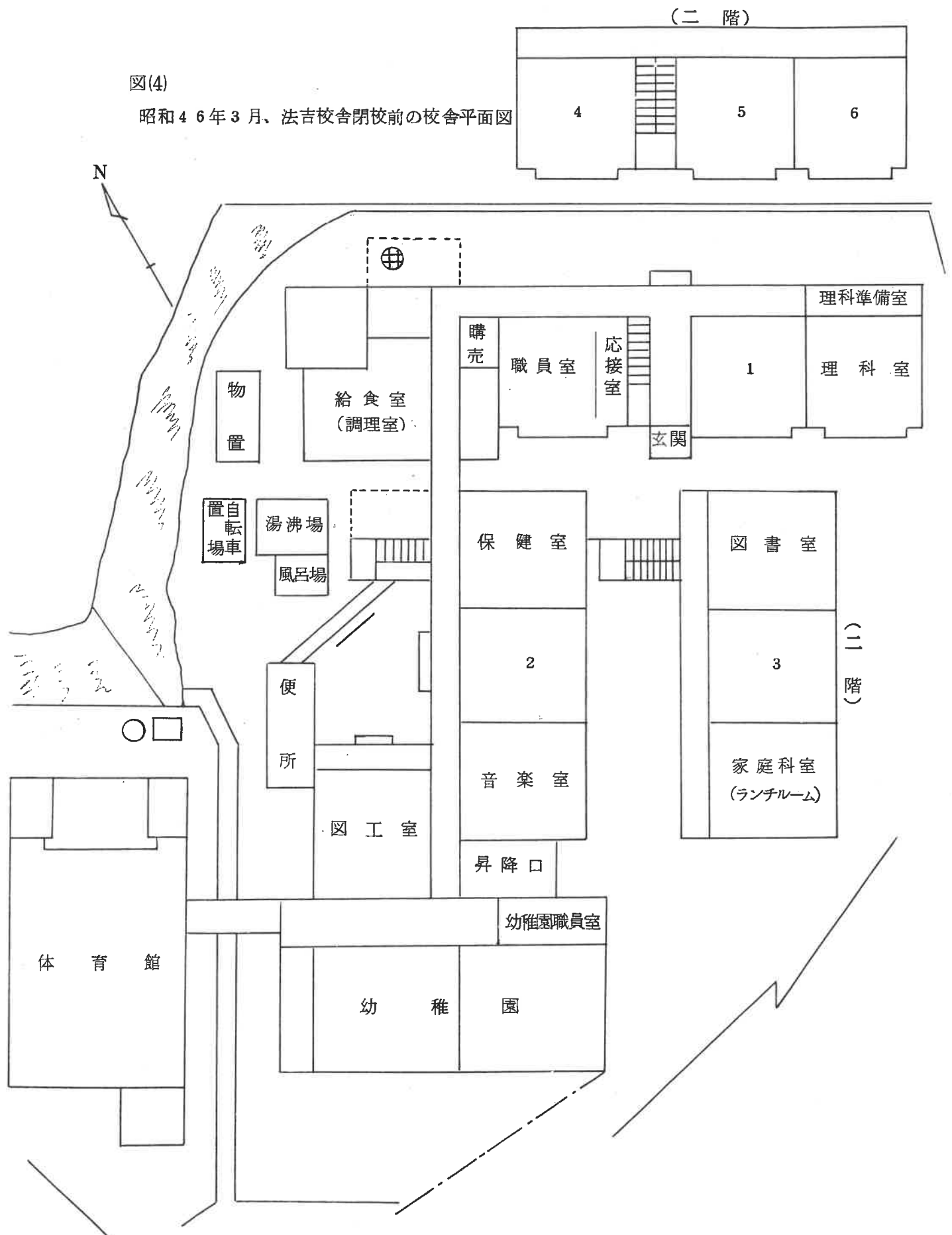
二 階



- ①～⑥ 小川在学中の教室
- ① 2年生との複式(畑野)
- ③ 4年生と" (恒松)
- ④ 3年生と" (恒松・安田)
- ⑤ この時改造して教室となる(木村)
- ② (竹原)
- ⑥ (米田)

図(4)

昭和46年3月、法吉校舎閉校前の校舎平面図



(3) 校 歌

○ 校歌は、昭和12年6月法吉村尋常高等小学校々歌が制定されたのが、校歌としての最初であるようである。一説によると、昭和の初年頃から昭和12年の校歌制定までの間、山中幸盛の歌が校歌の代わりとして歌われていたとも言われている。また、山中幸盛の歌は応援歌として歌われていたとも言われ、いずれが正しいかあきらかでない。いずれにしても、山中幸盛の歌が愛唱されていたことは事実のようである。

○ 法吉村尋常高等小学校々歌

昭和12年6月、作詩木村鼎氏、作曲米田慎氏による法吉村尋常高等小学校々歌が制定された。

○ 法吉村国民学校々歌

昭和16年4月1日より国民学校令により校名の変更がなされ、それにともなって新しく法吉村国民学校々歌が制定された。月日はあきらかでないが、作詩須藤吉郎氏、作曲米田慎氏によるものである。

○ 松江市立法吉小学校々歌

昭和22年4月1日より新学制が発足し、法吉村立法吉小学校（昭和23年10月10日より松江市立法吉小学校）となり、校歌はしばらく歌われなかったようであるが、昭和29年1月23日、開校80周年記念式典が挙行され、併せて松江市立法吉小学校々歌が制定された。この校歌は、作詩野津利一氏、作曲佐藤寿氏によるものである。

『山中幸盛の歌』

三日の月影 拝みつつ
七つの難も 八つの苦も
願い求めし 心こそ
益良武士の 鑑なれ

虎狼の 多き世に
独り麒麟と 唱われて
富田の川水 永久に
清きその名を 流すなり

あわれ忠臣 幸盛の
倒れて止まぬ 心もて
雨に嵐に たゆみなく
吾が大君に 尽くさなむ

八東郡法吉村尋常高等小学校々歌

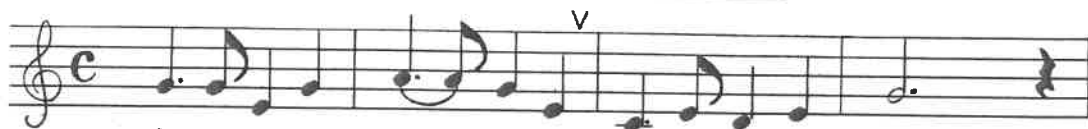
昭和12年6月

作歌 木村

鼎

作曲 米田

慎



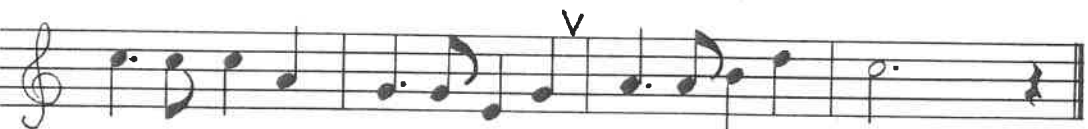
1. チ ド リ ノ シー ロ ノ ア サ ヒ カ ゲ
2. し ん や ま じょうーーし み か づ き の
3. ア シ タ ニ セー イ シ カ シ コ ミ テ



ト キ ハ ノ マー ツ ノ イ ロ フ カ ク
ふ ー た う ふ く つ の は た た か く
ユ フ ベ ノ ー ゾ ミ ミ タ ス ベ ク



ワ ガ マ ナ ビー ヤ ノ ト モ ハ ミ ナ
の ぞ み の ひー か り あ ふ ぎ つ ナ
ユ ル ガ ヌ コー コ ロ あ ゲ マ シ テ



ミ ー コ ト イ タ ダ ク ヒ タ ス ラ ニ
と ー は に た た へ くん そ の こ ナ ろ
ミ ク ニ タ ー メ ニ ツ ク サ ム

朝に聖旨畏みて
夕に希望 充すべく
ゆるがぬ心 はげまして
皇国のために つくさなむ

真山城址〔二〕 三日月の
不撓不屈の 旗高く
希望の光 仰ぎつつ
永遠に讃へん その精神

千鳥の城の 朝日かけ
常磐の松の 色深く
我が学舎の 友はみな
勅語いたたく ひたすらに

八東郡法吉村国民学校々歌

昭和 16 年以降

作詩 須藤 吉郎

作曲 米田 慎



カ ミ ヨ ノ ム カ シー ウ ム カ ヒ ノ



ヒーメノ ミコトガ アマガケリ



クニガケリーツツ ヒカリミツ



キーヨキ ヤマカワメデタマヒ



シツマリマセルー ホツキムラ

神代のむかし 宇武賀比の
 姫の命が 天翔り
 國翔りつゝ 光満つ
 清き山河 賞でたまひ
 鎮まり坐せる 法吉村
 真山の嶺 影ろひて
 三日月空に 懸るとき
 七難八苦 撓まざる
 たかき操を 偲びつゝ
 動かぬ心 磨くかな
 薪をせおひ 書を読む
 像を庭に 仰ぎつゝ
 祖先の業を 承けもちて
 國の力を 産びなす
 おほみたからと ならむわれ
 松崎の森 朝日射し
 心も清し 須賀の山
 皇國の使命 負ひもちて
 明日の歴史を 作るべく
 希望にこぞる 皇民われ

Andantino 法吉小学校々歌

昭和29年1月23日
作詩 野津利一
作曲 佐藤 寿

mp

マリ シ ノ モ リ ー モ カ ミ サ ビ テ
シ ゼ ン ノ メ グ ー ミ ニ ツ ツ マ レ テ

mp

ミ ズ ノ ミ ヤ コ リ ト ウ ミ ツ ナ グ
フ ル イ ユ カ リ ノ コ ノ サ ト ニ

mf f f

マ シ ロ イ ミ チ ノ ソ ノ ホ ト リ ワ
ア ラ タ ナ シ メ イ ミ ニ ウ ケ ル ワ

rit

ガ ナ ツ ー カ シ ノ ホ ツ キ コ ウ
ガ ハ ラ ー カ ラ ニ サ チ ヨ ア レ

自然の恵みに つつまれて
古いゆかりの この里に
[二]
新たな使命 身にうける
わが はらからに 幸よあれ

魔利支の森も 神さびて
水の都と 海つなぐ
真白い道の そのほとり
わが なつかしの法吉校
[一]

(4) 校 章

- 校章についての変遷も資料焼失のため不詳であるが、図案(1)が最も古く制定されていたもの
のようである。ただ、いつ制定され、いつまで用いられていたか明らかでない。図案は、稲穂
に飾られ、上部に曲玉で八束郡の「八」が型どられ、中央に「法吉」が記されている。
- 図案(2)がその次に制定されたもののようである。これは実物の資料がないので想像図である。
周囲は三日月で、その中に鶯が型どられ、中央に「法吉」が記されている。また上部に曲玉で
八束郡の「八」が型どられ、これが鶯の目の意を表わしているように思われる。三日月、鶯に
ついてのいわれは、図案(3)の説明を参照されたい。
- 昭和29年1月23日、開校80周年を記念して、新しく校章が制定された。この時の記録
によると、校章について次のように記されている。

朝に夕に仰ぎ見る真山は山中鹿之介幸盛公の古戦場であり、尼子軍随一の闘将として公が最
後の拠点として力戦奮闘、戦史に名を留めた古戦場である。青空にそびえ立つその雄姿は四季
折々の採色と共に、史跡名勝に富む校下の史話と共に常に当校児童の一つの精神的支柱であっ
て、三日月に七難八苦を祈った幸盛公の不撓不屈の精神を偲び、その精神を心とする意味より、
校章の基底に三日月を配し、更に出雲風土記にみえる『法吉の郷は「かみむすびの神」の御子
「うむがいひめの命」法吉鳥と化りて飛び渡り此処に鎮まり座せり。故に法吉と言う。』より
法吉鳥は今に言う鶯のことであって、鶯の宿は梅である。(校下に鶯谷というところあり、硯
学雨森鶯谷先生が居られた。)というところから、かつての村章であった梅の花を配し、その
中に「法吉」の文字を入れて作成したのである。尚、これは島根の生んだ調刻家、山根八春先
生(古江村在住)の作である。

図 案 (1)

実 物 大



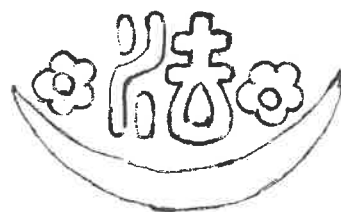
図 案 (2)

想 像 図



図 案 (3)

実 物 大



(城北教育10年史と重複(P6))



Ⅱ 歴代の学校長

○ 黒田小学校時代

初代 中村 準一郎 (春日)
 2代 横井 佐太郎 (比津)
 3代 福庭 某 (不明)
 4代 波入 長太郎 (不明)
 5代 山根 連之丞 (不明)
 6代 奈倉 軍太郎 (外内原)

○ 法吉小学校(含国民学校)時代

初代 奈倉 軍太郎 (外内原)
 2代 入江 重太郎 (不明)
 3代 前田 亀之助 (母衣)
 4代 石原 恵 (堂形)
 5代 大廻 範一郎 (来待)
 6代 梅原 久次郎 (大庭)
 7代 山田 義賢 (北堀)
 8代 三代 甚市 (本庄)
 9代 野津 象二郎 (朝酌)
 10代 竹中 豊成 (不明)
 11代 前田 保 (川津)
 12代 松岡 秀芳 (乃木)
 13代 木村 鼎 (本庄)
 14代 須藤 吉郎 (北田)
 15代 伊藤 正 (来待)
 16代 家原 明義 (穴道)
 17代 天野 誠 (奥谷)
 18代 梅木 繁吉 (雑賀)
 19代 田中 誠夫 (雑賀)
 20代 木村 福德 (東茶)
 21代 石倉 利雄 (内中原)
 22代 生田 方子 (米子市)

○ 城北小学校(法吉校舎)時代

初代 木谷 貞義 (国屋)
 2代 岩田 剛 (内中原)

(1部重複(P6))

Ⅲ 在籍児童数の推移

○ 昭和22年度～昭和45年度

年度	男	女	計
22	87	67	154
23	72	74	146
24	69	67	136
25			
26	75	67	142
27	86	78	164
28	103	101	204
29	115	119	234
30	128	136	264
31	138	145	283
32	149	155	304
33	165	159	324
34	148	149	297
35	137	141	278
36	131	122	253
37	121	116	237
38	114	98	212
39	100	100	200
40	99	103	202
41	102	100	202
42	94	110	204
43	87	111	198
44	91	118	209
45	101	124	225

※ 昭和21年以前の児童数は、資料焼失のため不明である。

IV 卒業生数の推移

○ 法吉村尋常小学校（法吉村尋常高等小学校尋常科）

卒業年次	卒業生数	卒業年次	卒業生数	卒業年次	卒業生数	卒業年次	卒業生数
M 2 6 年	1 3 名	3 9 年	1 7 名	8 年	2 4 名	7 年	2 3 名
2 7	2 1	4 0	1 3	9	2 5	8	3 0
2 8	3 7	4 1	1 9	1 0	2 3	9	2 5
2 9	9	4 2	9	1 1	2 1	1 0	2 1
3 0	1 6	4 3	1 2	1 2	1 9	1 1	1 7
3 1	1 9	4 4	1 7	1 3	1 9	1 2	2 5
3 2	1 9	4 5	2 3	1 4	1 4	1 3	2 4
3 3	1 5	T 2	1 9	1 5	1 8	1 4	2 6
3 4	1 4	3	1 5	S 2	2 0	1 5	2 0
3 5	1 5	4	2 2	3	2 2	1 6	2 6
3 6	1 3	5	1 4	4	2 4	計 9 5 5	
3 7	2 1	6	2 5	5	1 7		
3 8	1 9	7	1 2	6	2 4		

○ 法吉村国民学校初等科

卒業年次	卒業生数
S 1 7 年	2 3 名
1 8	1 5
1 9	2 8
2 0	3 3
2 1	2 2
2 2	2 8
計	1 4 9

○ 法吉小学校

卒業年次	卒業生数	卒業年次	卒業生数	卒業年次	卒業生数	卒業年次	卒業生数
S 2 3 年	3 0 名	2 9 年	4 2 名	3 5 年	5 3 名	4 1 年	3 3 名
2 4	1 6	3 0	2 7	3 6	5 9	4 2	3 5
2 5	2 2	3 1	3 5	3 7	5 1	4 3	3 7
2 6	1 8	3 2	2 8	3 8	5 5	4 4	4 1
2 7	1 9	3 3	2 6	3 9	4 8	計 7 8 7	
2 8	2 4	3 4	5 6	4 0	3 2		

○ 城城北小学校（法吉校舎）

卒業年次	卒業生数
S 4 5年	3 1名
4 6	2 5
計	5 6

○ 法吉村尋常高等小学校高等科

卒業年次	卒業生数	卒業年次	卒業生数	卒業年次	卒業生数	卒業年次	卒業生数
M 4 1年	6 名	6 年	9 名	1 5年	9 名	1 0年	1 8 名
4 2	4	7	5	S 2	1 1	1 1	1 8
4 3	6	8	9	3	8	1 2	1 4
4 4	4	9	8	4	1 4	1 3	1 2
4 5	5	1 0	7	5	1 9	1 4	1 1
T 2	3	1 1	9	6	1 7	1 5	1 2
3	6	1 2	1 3	7	1 1	1 6	2 3
4	1 2	1 3	8	8	1 1	計	3 5 6
5	1 1	1 4	8	9	1 5		

○ 法吉村国民学校高等科

卒業年次	卒業生数
S 1 7年	1 3 名
1 8	2 3
1 9	1 6
2 0	1 2
2 1	2 2
2 2	1 7
計	1 0 3

○ 卒業生総数

小学校 尋常科	9 5 5 名	}	1, 9 4 7 名	}	2, 4 0 6 名
法吉村 国民学校初等科	1 4 9 名				
法吉小学校	7 8 7 名				
城北小学校 (法吉校舎)	5 6 名				
小学校 高等科	3 5 6 名	}	4 5 9 名		
法吉村 国民学校高等科	1 0 3 名				